医学博士のメディカル・コラム

病気が教えてくれるもの

第37回　『見えない目』

昔の人は、子どもに「お天道様がみているよ」と言って、人のいない場所でも悪いことをしないように“見えない目”の存在を伝えた。イギリスでも、目のポスターを街の防犯対策に導入し、盗難発生率が40%も低下したという。どうやら人は『目の存在』を感じると良心のスイッチが入るらしい。

西洋最高の彫刻とされるアテネのパルテノン神殿の屋根を制作したフェイディアスは、会計官が「誰も見えない背中の部分まで彫って請求するとは何事か」と支払いを拒んだとき、「そんなことはない。神々が見ている」と答えたという。『目の存在』を意識したからこそ、彼は手を抜くことなく、細部にまで意匠を凝らして、最高の芸術を生み出したのだ。

人の目が存在する場所で美徳をなすには、ちょっとした良心の呵責と勇気が必要だ。お年寄りに席を譲る時や迷惑行為をする人に注意する場面を想像すればよい。けれども、それは時に自己アピールに繋がっていることもある。一方で、「人の目が存在しない場所」で美徳をなすということは、『見えない目』をどこかで意識しているから出来ることなのかも知れない。この見返りのない「陰徳」を重ねる事こそが、結局はその人物の品格や人を惹きつけるオーラを創ることになるのだ。

発言や行動と違って、心の中は他人の目には見えない。つまり心の中は「人の目が存在しない場所」でもある。その心の中で『見えない目』、つまり“自分の思いや考えを見通している目”をいつも意識して生きようと努力する中に、人は本当に美しい人生をプロデュースする方法を所有しているのではないかと思う。

医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。
米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留学、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。

医療法人
きむら内科クリニック　TEL 044(981)6617
麻生区片平5-24-15　きむら内科クリニック　麻生区　検索